掌中桂園一枝

全

本庄

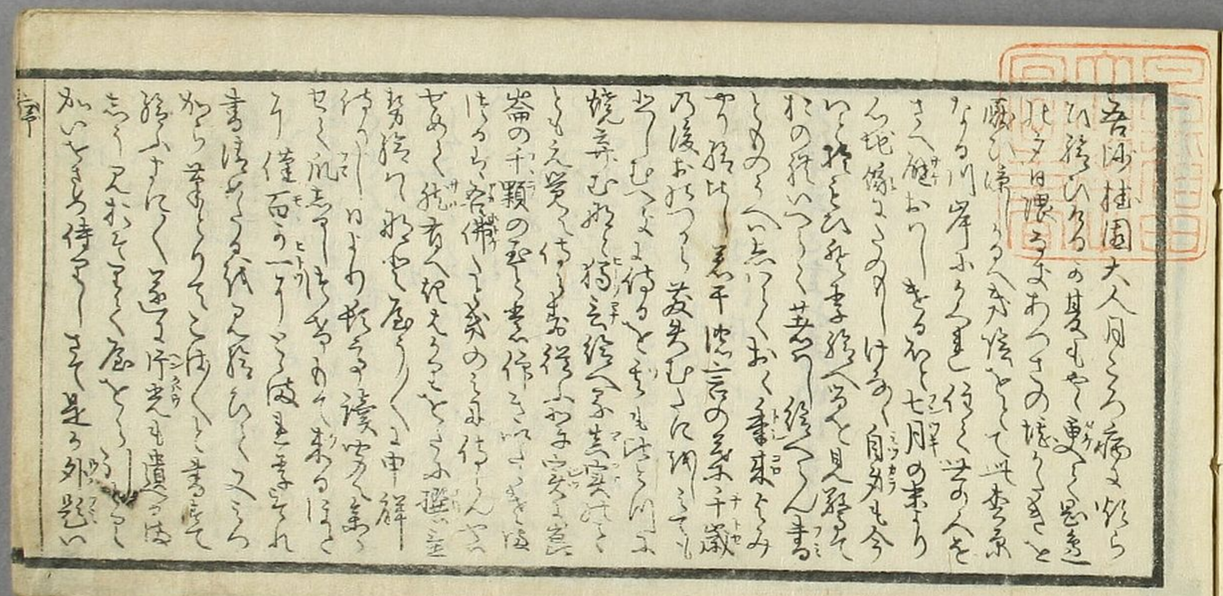
113
1025

オ 13
1025
巻

掌中

桂園

一枝



[illegible]

天保十年 己亥 [illegible]

春歌

[illegible]

春風春水一時来

春水濤

[illegible]

初春見鶴

[illegible]

[illegible]

雪消山色静

[illegible]

[illegible]

[illegible]

龍房仙文郎氏寄贈

ある年北青柳の日にもはるばるとうつさせ
ちよう紙白川のふねまをそうひく神さまへとうろん

霞

れいぼくさいこの巻の柳あらわれいもるる立ん
かつらきの山の姿は打麗さたそうとうあきぶ所れ

霞遠待

大比叡やどいえのかの連のひとれとる狼うまあいろ

霞添山色

いそのうの遠山ふうくのこのもえくれまるえ

野外鶯

巻はとの春巻くれのものいの新かれまあくうら

海上霞

ひてとえくいうひ〜岩藤の浪居にもむれのむい立

霞

巻ばく初ふのうれさに結ばるとる鶯わ〜きぶ
いさもろ松うれ巻と鶯ちくるもあて巻ぶ戸

待鶯

ゆうれまるに結う〜笑行ばとう巻うえれさん

巻訓

新年巻〜かうの日い巻のうるるとうも春とみるの日い

雨中巻

巻ふるれ〜ひ日のまるいつまくうは物ふうる

野外巻

北〜ゆれうれるれとれ鶯ゆ〜きつてそく学れ鶯

水を巻

河上の波藤末の春ろうん峰うんひまち氷とうん

情巻

松とゆてゆう巻い我者の行の松ろうや鶯ろうそん

海辺鶯

鶯ゆくおうつおうきこ巻れしわ〜たうゆ巻ろう梦

夕鶯

巻ゆうる山ゆうて巻こうる美むゆ巻ろ松ろ郎ん

関路鶯

ゆうこひるおえ巻巻ゆ巻〜巻ゆ巻ゆ巻の巻ゆ

山家巻

巻の戸ゆ巻のひひ巻ゆ巻乃巻ゆ外の山ゆ巻ゆ

花間鶯

そうれ巻ゆ巻ゆ巻れ巻れ巻の巻ゆ巻ゆて外

名所巻

根芹つ〜松きこえ巻のこくえ巻ゆ巻の巻ゆ巻

若菜

かるゆ巻ゆ巻ゆ巻

[illegible]

残雪

[illegible]

蜂蜜

梅の[illegible]

梅

[illegible]

梅度年香

年の内に咲つる梅の初花をさきうるもあはれなり

海年愛梅

[illegible]

月前梅

[illegible]

清月上梅花

[illegible]

晴夜春

[illegible]

山家梅花

[illegible]

梅を書留袖

[illegible]

柳

[illegible]

柳露

[illegible]

夕柳

[illegible]

故郷柳

[illegible]

水郷柳

[illegible]

遠村柳

[illegible]

春帰短

[illegible]

早蕨

[illegible]

早蕨を遠

[illegible]

春月

[illegible]

春月曉

[illegible]

春曉月

[illegible]

春夕月

[illegible]

山家春月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ちくさもゆきあるかしと林泉のみむろの山とふ風をさく

河上花

大堰川とくらねやまに新人てとしもかるる山さくらかな

花交松

世をかぬ嵐の山とえさくとおもふそれのはるうらくん

花有開落

とよみしやきふるをの桜花ぞうの咲てやひくらくん

落花

みなかのかはくぬ桜花ちるうきくるみ初瀬

夕落花

桜ちるやまかせにて小ふるさとの桜

落花浮水

流ゆくさくらはいかのかくもあるとやむのくはりかな

池上落花

池水の底ふかふかの新の上にちるてかさねる桜

花落宮殿

花ちれいさくひとくあるよ人とわるとも思ふるうれ

暮春落花

浪われいとはかはなれおはやよゆくへくてちる桜

春雨花蝶惜去

千里ちるとうとふのいくさくさがはやくらん

残花少

ひとをわてみくちの世年にはくいるおるもくるうる花

人のかくはかはかはかはとしらくくはるるもくるうる花

待ちはるられさ色ひとはもとうるをはるうる桜ぶ

志賀山越

志賀のはやさうは桜ふかるとをかるはるうる

山里興多

桜ちる川べはのはるうるうるるはるうる

花山のをとふはるうるるはるうる

春山嵐の桜ちるくくはるうるるはるうる

大井川ぞ桜くくはるうるるはるうる

禁中春うて

おはるはるうるるはるうる桜月夜の春さくはるうる

はるる雨のふの春日

嵐山落るはるのはるうるくくはるうる

清水寺はるの春くくはるうるくくはるうる

はるはるの春くくはるうるくくはるうる

月の新くくはるうるくくはるうる

遅日

はるくくはるくくはるうるくくはるうる

桜ちるくくはるくくはるうるくくはるうる

題しらず

春ふのくはるくくはるうるくくはるうる

燕来

かくくく

[illegible]

雨夜思落花

[illegible]

暮春

[illegible]

水之流川のほとりにてみるこゝろ河暮春

[illegible]

夏歌

[illegible]

郭公

[illegible]

郭公

[illegible]

待郭公

[illegible]

遠国郭公

[illegible]

月前郭公

[illegible]

雨後郭公

[illegible]

郭公二聲

[illegible]

郭公

[illegible]

遠里の郭公

[illegible]

[illegible]

時雨

初秋と声ばかりやかりの山はまだきなれども

郭公帰山

時鳥人の山ふかい拝もせず世にうとほやわつくろん

菖蒲

あやめまかりにのこる人かれ池のくやほしとれもこそ

川菖蒲

[illegible]

菖蒲

[illegible]

盧橘黄袖

[illegible]

六月雨

[illegible]

六月雨欲晴

六月雨の[illegible]

六月雨晴

[illegible]

夏雲

[illegible]

夏山

[illegible]

六月の[illegible]

夏衣

[illegible]

水鶏

[illegible]

夏月

[illegible]

樹陰夏月

[illegible]

題不知

[illegible]

夏草

蓮生法師[illegible]

風来見竹

[illegible]

夏来家

[illegible]

[illegible]

[illegible]

蛍

[illegible]

雨中蛍

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋歌

初秋風

今うちは秋の初風あわうらに吹てうつろふ

初秋露

片岡のあさの露に秋きぬとめでてうつろふ

おもしろの秋の風に秋きぬとめでてうつろふ

秋来水色

みよしのの山のあきかぜ吹にけりあらの小田の稲葉そよぐ

題不知

さ山のあきかぜ吹にけりあらの小田の稲葉そよぐ

七夕

ひさかたの天の川瀬に秋きぬとあまの羽衣ぬぎかへにけり

七夕

ぬきてうつ衣の音のあまの川瀬に秋きぬとあまの羽衣

小車の音にあまの川瀬に秋きぬとあまの羽衣

七夕雨

時雨ふる天の川瀬に秋きぬとあまの羽衣ぬれにけるかな

七夕紅

天の川瀬に秋きぬとあまの羽衣ぬれにけるかな

七夕後朝

一夜ばかりあまの川瀬に秋きぬとあまの羽衣ぬれにけるかな

海邊七夕

七夕はあまの川瀬に秋きぬとあまの羽衣ぬれにけるかな

霧中七夕

ひさかたの天の川瀬に秋きぬとあまの羽衣ぬれにけるかな

懐半女恋懐

あかねさすあかねさすとうて秋くいつうてやもきーと四そ秋

聴萩風

限あれば秋の風ふきぬとあまの羽衣ぬれにけるかな

外山のあきかぜ吹にけりあらの小田の稲葉そよぐ

あの秋の風ふきぬとあまの羽衣ぬれにけるかな

萩

いくしのあきかぜ吹きぬとあまの羽衣ぬれにけるかな

ひさかたの天の川瀬に秋きぬとあまの羽衣ぬれにけるかな

さ山のあきかぜ吹にけりあらの小田の稲葉そよぐ

古寺の秋の風ふきぬとあまの羽衣ぬれにけるかな

落

紅の色ふかき秋の風ふきぬとあまの羽衣ぬれにけるかな

古里の秋の風ふきぬとあまの羽衣ぬれにけるかな

妹が袖ふれし秋の風ふきぬとあまの羽衣ぬれにけるかな

落葉風

ひさかたの天の川瀬に秋きぬとあまの羽衣ぬれにけるかな

行路落

旅人の袖ふれし秋の風ふきぬとあまの羽衣ぬれにけるかな

落紅

紅の色ふかき秋の風ふきぬとあまの羽衣ぬれにけるかな

紅葉

かくしつつ秋の風ふきぬとあまの羽衣ぬれにけるかな

紅葉乱風

妹が袖ふれし秋の風ふきぬとあまの羽衣ぬれにけるかな

庭載野花

いくしの秋の風ふきぬとあまの羽衣ぬれにけるかな

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋雨

[illegible]

山陰秋雨

[illegible]

將附雨

[illegible]

月

[illegible]

雲間秋月

[illegible]

独人對月

[illegible]

對月待恋

[illegible]

深夜月

[illegible]

月夜風

[illegible]

雲收月明

[illegible]

山陰月明

[illegible]

山月中秋

[illegible]

月夜松

[illegible]

月前松

[illegible]

松間月

[illegible]

松月夜深

月夜松風

[illegible]

竹間月

[illegible]

月夜竹嵐

[illegible]

月照流水

[illegible]

十六夜月

[illegible]

十六夜月明

[illegible]

五つはけるこゝ
えてむしのひとこゑ
故に月
秋のとゝめをぬすみて
月雨星故に
いつかはいなんと
水に月
松のこゝろ
田家月
はるかの彼方
思月
あるかてなまとも月
関路月
流るゝ人の月
浦月
月冬ゝうの山
九月廿日
きの流れ
病ふせる人
わすれん
月雨の秋
立春
月新菊
初春
月雪中
旺月の光
月雨紅

月雨後
月雨笛
秋の中比月もみぢ
寄月秋夜
三笠山のふる
みなの浦
月の雨ゝ
月の雨ゝ
雁
沖にはえ
秋風のふ
風雨雁
山ちかくは
夕ゝ
山陰のとゝ
山家ゝ
山里は
旅泊ゝ
うゝと行
遠山雪
志賀の山
松上雪
彩雲のゝ
林間雪
朝雪は
関路晴雪

相坂の関は秋もいと寒くなりぬ　月の
河霧
いつもこの秋のあさぎり　秋もまだいろはなれぬ
遠村霧
山ぢてはつゆもまれなる　秋きりの後ふる雨の梢井の里
擣衣
山ぢより秋さり衣　ひびくおのうつぎぬ　ちりぬるはぎ
小萩散て　ちりぬるはぎ　ちりぬ
晴擣衣
有明の月より　ちりぬるはぎ　ちりぬ
山家擣衣
ちりぬるはぎ　ちりぬ
海辺擣衣
ちりぬるはぎ　ちりぬ
旅宿擣衣
神垣の　ちりぬるはぎ　ちりぬ
略
宮ぢの　ちりぬるはぎ　ちりぬ
沃畔略
略
略の羽　ちりぬるはぎ　ちりぬ
故郷吹寒
古里の　ちりぬるはぎ　ちりぬ
宮の内　ちりぬるはぎ　ちりぬ
山ぢより　ちりぬるはぎ　ちりぬ
菊寄
白きくの　ちりぬるはぎ　ちりぬ

菊花久
菊の花　ちりぬるはぎ　ちりぬ
菊開中友
菊の花　ちりぬるはぎ　ちりぬ
菊制頽齡
菊の花　ちりぬるはぎ　ちりぬ
老対菊
菊の花　ちりぬるはぎ　ちりぬ
菊映水
菊の花　ちりぬるはぎ　ちりぬ
紅葉
紅葉　ちりぬ
松間紅葉
紅葉　ちりぬ
山家紅葉
紅葉　ちりぬ
紅葉戍
紅葉　ちりぬ

[illegible]

暮秋

[illegible]

暮秋雲

[illegible]

冬歌

時雨

[illegible]

父君の一周忌ふ時[illegible]

[illegible]

風前時雨

[illegible]

山時雨

[illegible]

関路時雨

[illegible]

川時雨

[illegible]

里時雨

[illegible]

河上落葉

[illegible]

山川の岸とひとしてれ水[illegible]

関屋落葉

[illegible]

残菊

[illegible]

寒草枯見残菊

[illegible]

残菊到雪

[illegible]

[illegible]

[illegible]

氷

[illegible]

氷閉細流

[illegible]

冬月

[illegible]

寒月

[illegible]

冬月照梅花

[illegible]

寒夜千鳥

[illegible]

[illegible]

氷雪

[illegible]

水きハけはしきもとと廣沢の汀まてなれ波いとかすれ
小夜ふけてさとのをかつるまちにてわさ芝の秋のさそ
鶴青水鳥
こやの池とひとしてかれる水きにたちくる鶴猛名の松原
さを夜水き
うしはさやすらはなくかりのまもこころをたちひとこと
江鳴
あ一野はさはくまのみてつ七年もそけ一ぶくろう
鶯
ふるの池こ藏きとゝ一の一段ひいふとかくるむ
網代
なさらのの山の木枝さえんは網代の無つりたくむ
風さあちかりの家こまいかりの船とひとのいっぷくん
霞
まちてはつそれかるらいとく松の葉一ろくぬくるぶ
霞
あくるちんはの板倉はひあ一きはあ海くあ此家稲さあ
彩ちくふるやあ一まのおつるふちいしもみれおはくるん
除夜霞
いるえるりかくるとくるかるくの家でちてゆる喜ぶ
行路霞
みほとの道行のくちかつて独ふむ山あ一れな
雪
きて一のはてれあ一彩よりこ雪はくつかるこ一ぶのこ
あくまあきみ波はてんちやきるくひこえくつりる雪ぶ
雪のとひ彩のちるはもはくひくろ雪ちはんの雪ゆやあ一ち舞
待雪

彩のれるはくて一えもくつ一きの雪ゆもくこあ此雪
初雪
巻上るまの巻はさ一に思ひあるあけるのくつ雪
雪はあるはやはつれ花思ふのよ一もはくこ初雪こある
雪中歌人
彩ちはくは雪ゆ人ホ一ふるふやあ一氏つけんこもくる舞
つくて後ろくよりはつくのちふるやあ一氏つけ一とくを
雪仏花
梅ちはくはくよりはくふ一ふくはくこ雪人ゆはくこ彩一をくれ
山雪
かくはり海れちくはふちくれ山ふはちるくは彩るゆ
遠山雪
みをくりくはゆふくはかつ一花のは振はくふはくはるちる郭
河雪
彩くをくは一はくはをくは一みは一はくはくはくはくはるゆ一
山家雪
仏雪は彩るはつくはくはくはくは

[illegible]

宮中歳暮

[illegible]

炭竈

[illegible]

雨降埋火

[illegible]

[illegible]

[illegible]

神楽

[illegible]

[illegible]

歳暮

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

歳暮近

[illegible]

都歳暮

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

恋歌

初恋

世中のをむなもろもろのすれるかをしむとて秋ぬれば
きみ恋ひつゝをりの露をたのみてあはれとをもへ
忍恋

かくしつゝ[illegible]

[illegible]

月よりも怪しう所どころ[illegible]

遣車侍歌

今さらに[illegible]

きま歌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

思

曉行思

陪遊

橋東

閑遊

綾遊

春思東

春夏東

夏月遊

秋情遊

秋夜遊

夏夜

月夜

月夜

月

雜歌上

朝

[illegible]

領[illegible]

[illegible]

海

[illegible]

秋霧

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古戍雲

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

池

[illegible]

田

[illegible]

市

[illegible]

畑

[illegible]

閑居

[illegible]

閑居夢

[illegible]

山家

[illegible]

山家水

[illegible]

山家秋

[illegible]

山家鳥

[illegible]

山家人稀

[illegible]

山家客来

[illegible]

山家紅葉

[illegible]

古松

[illegible]

松色映水

[illegible]

人の賀ふ松添栄色とりてこそ

[illegible]

對松爭齢

[illegible]

三宝院の[illegible]列業有耕亭社十景の

和歌ありをかまほしくてすゝめける中に

彈琴邸松

[illegible]

車衡の中時をしらなひ春ゝせ

[illegible]

[illegible]

[illegible]山の松も老みとしを経たるこそ哀なれ古里
摂津の川辺うゑし桃の花の色ひとしほ濃
百代を送迎とも桃の花の色ひとしほ濃
東六條の寺教かほ法成園の寺の情
和琴よりみくたてゆかりの中ふ
及松嶋しいへと
[illegible]
河原のおとゝの所天くの遊
く御行始に神楽園なるまゝ日よ
御祖の大神ふまつり〳〵さ歩行ひ
[illegible]
へ〳〵と行へうるゝいるゆくむつゝを
[illegible]
[illegible]

鶴

かゝへてもとゝのもとのさくらの久しとやゝ年を重る
[illegible]
鶴ひれてはもゝ〳〵ふ
[illegible]

鶏

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

月夕べ[illegible]
雨中灯
[illegible]
[illegible]
[illegible]
旅行
[illegible]
旅暁
[illegible]
旅釣
[illegible]
旅宿松風
[illegible]
月前旅情
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

渡河寺間数うち一乃五ようひとをる
七八一名付ふよえる
たとへまくやてといふる白山のゆきてゆるる花れ
見山紀行らいまこそいはまこそふもたうはつら
けりそのこし志くしく都ふ遠ひく
伊勢の方ひへ久へ至る時越上乃里
はて送りくよ
立山のとくつらつまふ久ほ久ていつ河ふ
楽吉郡夢宅ふ伝法ふる行ふの方へ
かくふくと送りく
五社徳寺ふ行ふ送りく
師之八ふつくこ越後国寺仏なる国
雅法阿都ふ
ふくふへ久ん年こむもこう
雅しいこ
同くふ郡ふ山信山ふ道もうしよ
地田基永素乃妹母とこ
ふつへ久れるき事いきいこて
ふに来さるときにより
君ゆくいよ妹ふ山身ふもよ
内山間生秋ふ真起ふ
伝法国へくうけるゆくふのほり
ふくふくむ年とのさえに
伝法法の来ふ
述懐
かく年結ふ
いくらふひの

六月二日かりまん新宮まれ門傳人さ
ふさの枝ぬて面のみ〜〜う傳々を仕るる
さ〜こ氣をのこれる御てさみれ
拙著せ〜以人ものに契うれるるものを
てまと後へ〜ら怪さに有るものをさこん
けをい家ほ紀くるの條
ょ〜ものをさ〜えこ〜ものこ〜ものむ所を藝と後を考ん
小澤芭蕉庵多まうやし〜はよみ〜くつ
ん〜〜とれ
新るいなるこ〜ものまこに新宮をこ〜ものいい天〜ものを
めのものひ〜ものこ〜ものを仕武者小路左平樹
けものるる所とつ山藤ょ〜ん〜くれこの
ぼ〜〜〜
散る〜ぬる樹々の葉紅の葉紅の葉紅の葉紅の葉
清西〜
なるまして考すれの樹の九月つ陰ぬ山ほ
〜〜ん〜ものを〜ぬ〜〜ものを〜ぬ〜〜ものを
ものひまして考ものを人れものを〜ものひ恢ものを〜ものを
同〜比白ぬの花と人のかろ〜ものを
岸紙ぬ〜ぬ花のひ〜ぬ〜ものを〜ものを〜ものを

城拙せ〜乃初月ものを寄ものをとみ〜く
手向け乳ぬ
何を此かを〜ものを〜ものをほ〜ものを〜ものを
武人い国〜とものを〜ものを花のもに寄ひ〜ものを
乞れを〜〜ものを〜ものを〜ものを〜ものを
山の乳を額ぬ〜ものを〜ものを〜ものを〜ものを

なてけを〜ものを
七月乃末雲とれ花のものをものを
昌数ら藤七帝て浅加級の宣下ら立
ぬ紙を子さ〜みのを言を言をものを言を言を言を言を言を言を
おを〜〜ものを〜ものを〜ものを〜ものを〜ものを
ものを新を歩て花位山のものを〜ものを〜ものを〜ものを
大弥ものを〜ものを〜ものを〜ものを〜ものを
義を〜ものを〜ものを〜ものを〜ものを〜ものを
何り花せ〜ものを拘るの国を貴を〜ものを
ものを〜ものを〜ものを〜ものを〜ものを〜ものを
程を れ舞岡
ものを〜ものを〜ものを〜ものを〜ものを〜ものを
猿藤のものを〜ものを〜ものを〜ものを〜ものを
ものを〜ものを〜ものを〜ものを〜ものを〜ものを
琵琶ものを〜
おのを〜ものを〜ものを〜ものを〜ものを〜ものを
越後獅子
ものを〜ものを〜ものを〜ものを〜ものを〜ものを
尉と姥のを〜
梱七ものを〜ものを〜ものを〜ものを〜ものを〜ものを
白蔵主狐とものを〜ものを〜ものを〜ものを〜ものを
ものを〜ものを〜ものを〜ものを〜ものを〜ものを
末鹿とものを猿木の島
ものを〜ものを〜ものを〜ものを〜ものを〜ものを
一同〜〜〜勢猿
やまひ〜ものを〜ものを〜ものを〜ものを〜ものを
同〜〜〜千寿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

みなそこにうつる月の影ともに秋夜ものすさまじ

三室院の御門にまうでゝ

てらすとてさすがにうつる月の影ゆゑとなれこそなれ

さゝ葉ふく庭のまがきにかけてやあるのこゝろ

そゝぐとてはかなき水も玉ぬきとくだけるかなる

はゝそ岡松ふく風のしらべ

世にわすれ個人さびたるこゝろ

面壁の達磨

わすれ草ゆゑにて草庵はるとなしにはなさむかり

布袋の後むきてゐる

なりとはいかなるこゝろぞ空本むもゝくさのこゝろかな

ゆくゝゝうつりもてゆくなるべし

青蓮院にゆる新とをみてとゝ

月に指さゝるゝ

明月むき時を待をなく月の都をはるゝやきを

貧頭盧

身にしみてなく佛のこゝろもれ

寒山拾得

わがこゝろひとりにしらぬ山ぶきの花はさかりの秋夜の月

丹霞佛像をやく

佛心炎くわしもの空ゝゝ

隈なき秋をまちひてゝ

雪ふるとなるなかの月をまてもまつ空の雲ゝ

ひとり佛

わとこゝ樹ゝゝにしらむはゝの秋ゝなる雲際の袖

聖ゝ頂泰平

かゝにたゝりしさゝ二むゝの雪をゆきとけりし夏ゝ

臺頭有佛

いさゝかなるこのよりとりて茶ゝ茶のゝ八月のゝ

鶴

わゝふのつきゝゝ家のほゝ

雜歌下

四月一日

なゝゝわそひなるはちをゝ

きめ歌はまる吳公れ行の長ゝむきはをにゝ

いかにて吹つゝゝ人古ゝわ

むつゝ三月ゝ人ゝ

ちはふの夫婦の夫ゝ

なるはは老ゝしゝ

初ちゝゝくはゝゝ

ゝゝゝのゝゝ

松花はゝはゝゝ

とりくる松と

ゝれゝゝ

琴弾法ゝゝ

いゝゝゝ

はゝゝ

はりなれゝ

ゝゝゝ

ちゝゝ

はゝめゝ

ゝゝ

ゝゝ

[illegible]

三題 [illegible]

[illegible]

二月のくれ [illegible]

[illegible]

稲荷詣

[illegible]

涅槃會

[illegible]

[illegible]

[illegible]

不倫盗戒

一月後半みりとりの日は十九日に又戒のうてまゐ
十月の末毋君の日十九日に又戒のうてまゐ
水のうてはもつのてこは仕てやきもかつられて
ぬはしくふまるにの水は又の者とつまて也布うて
おむくーみと望くー
時又とまる出雲のら者ハ仕るなのこはなまれ
雪はつ月なるわーく者を魚ろとんまろ
はいくに仕わ人の柿のねとうて仕くく
義とみて教おまるの数てはて教わをつる水

その日ふれを柿もて四ゆく仕はつとふれうとれれ
かまをうるめくー
柿枝と今はつゆるにてまるふれをもうはつ月む
やまなはゆまるうろうるうまの水月と日事雑
ふるうるてうみくまるうれ月とれーに

青

はつ紫りうとまるはるはの水柿ふーはをあるりはて

黄

はの月の義はて一ゆうる東周まるりはるる色月に紅

赤

うら柿の仕者うるて吹まるうる月に義く秋の風れ

白

初実はまるまる柿はは仕まるまるんるの月

黒

うるまるて牧月うまる仕まるまるまるまるる色

神祇

神社神代うは天の戸とれひきまはみて谷の仕笠
常世人の長寿を初より神しわーるるまをは
はうはは神代まうはとのぶりとう神の祭くう

三物

校えうはてるふまをて次風のまるをみれ神宇笠
影ーら影
神垣のえまにはうは日後の月れはうはまはやはさ

等神祇

まうれたはまう神と社はは月動くるまはうんうるる
天地のはるの神るえまるん年代はれはるれひと

歩月祝

[illegible]

寄月祝

[illegible]

寄水祝

[illegible]

寄松祝

[illegible]

寄竹祝

[illegible]

寄花祝

[illegible]

寄道祝

[illegible]

雜幹

長哥

[illegible]

園にてうぐひすの[illegible]

[illegible]

春雨ふれられ[illegible]月雨[illegible]

[illegible]

[illegible]

わ〜ゐをて又ゆゑ之ゆゑ[illegible]の一をとすき大きち
梅ふ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ

わかやどのはすゑにはなのさかりなるを又いとさえにあるとかくけり年
ものをいはくゝしとかきてはるのはなとかくけり年
ゆくはるをひとりけるとかきたり年とかくけり
芝中にあるはるの映のとくゝ枝おのゝとくゝ人をもてるれ
蘭の枝を
ちるを色とりのみされくゝ
新しらん
けさのうちにさく枝を待て栄のたれてとらくく枝の花
姑のつぼみよりあるを葉にのこれるを付らてをもくゝをれ
花をれくゝらるゝ時いかにとかくゝ人のをををからくゝすれ
をさ枝の梢のひむをさきをの枝に残日はゝををなく
われはあるをもちゝ(つきゝ)にはるをにてををれくなり
あるにをの木つる我をとてこれをうれ枝ををゝらいも
ふ葉にもちる月は散をれいをきくゝをわゝををふく
をををれをゝくゝをゝをれて木をけるのうけ加郎
花ををるをけをををけつゝくををれ水の様ゝも
秋をけををゝく掛をの秋のをのをゝくをれ梁枝をきゝう
箱根山ををりをゝ新をゝうけをゝうゝをおをもゝれけく
はをゝうをゝちをけをゝむゝをゝ作の西をけをゝをゝけ
周新をゝくれををのむゝはをゝの後をゝくをゝうれけく
をれをゝくゝむの冬をゝをををゝ月吹をゝむ本をゝゝの尺
なをゝをる氷をゝをけをゝくれをゝ月をゝをる月れけ加郎
新氷をゝをゝ後をゝをゝくれ老をゝ水ゝの夏をゝ枝をゝも
をゝれ枝のをゝをゝをゝむをゝをゝをゝをゝて笑をゝをゝれ
一月梅ふいりけ(はる)
野川はをゝしくをゝを梅のいをゝをゝをゝをゝをゝをゝれ
新しらん

天保十一歳

羅垣

藏板

羅垣藏板

早稲田大学図書館
011888010086